

明治維新150周年「維新未来博」テーマ研究発表

日本スイーツの聖地

～よみがえる奄美大島白糖製造工場～

鹿児島県立古仁屋高等学校 2 年
濱田怜弥, 岩木乙香, 奥村芽生, 福沢あさひ

きっかけ

- **H30.7月25日-27日**
インターンシップ（職場体験学習）で
埋蔵文化財センターのお世話になる。



二日目

奄美大島の近代遺跡を視察

奄美大島要塞司令部跡 → 手安弾薬庫跡

→ 久慈佐世保海軍軍需部大島司庫

→ 西古見陸軍掩蓋式観測所

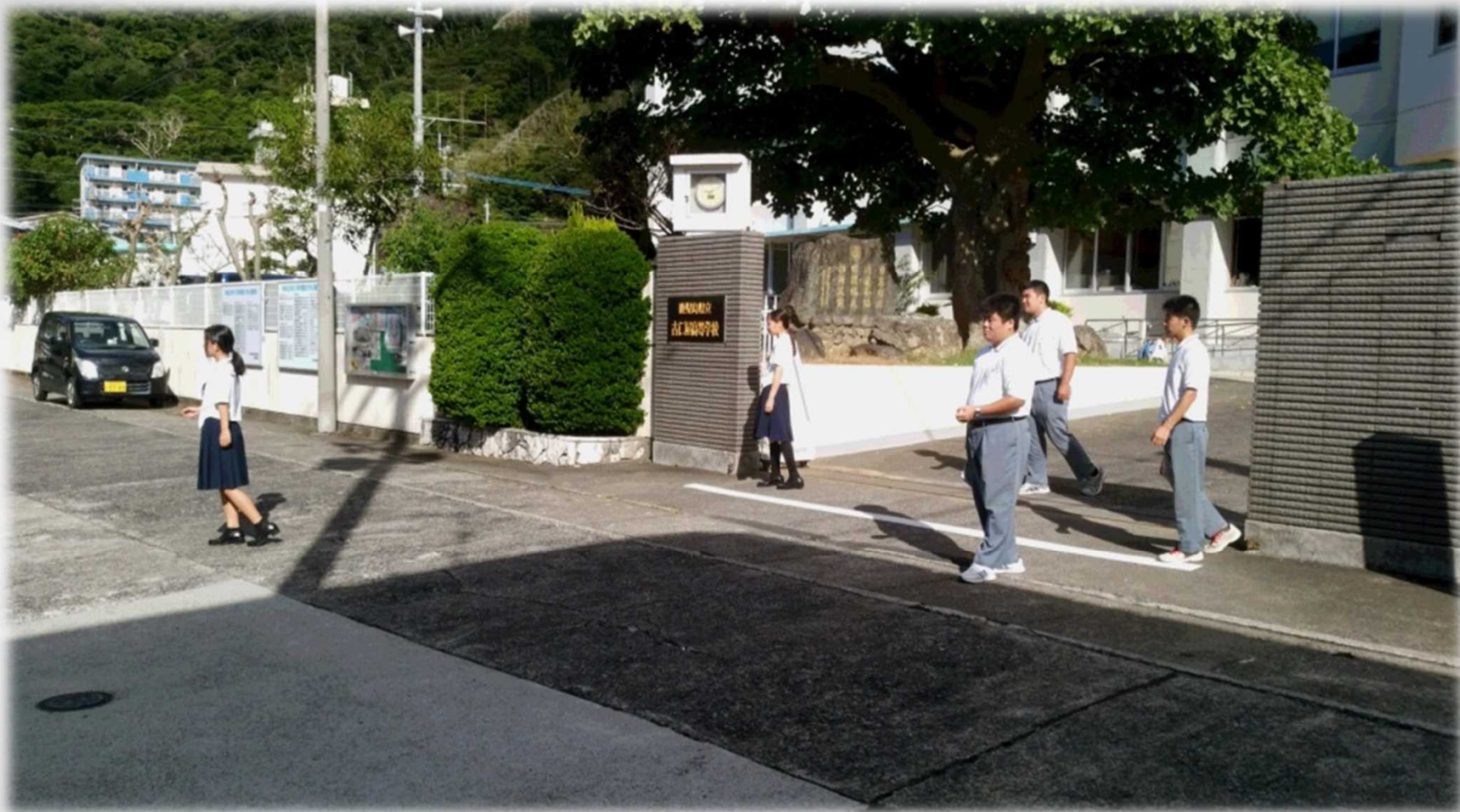
→ 久慈白糖工場跡

奄美大島要塞司令部跡



昭和2年 天皇行幸

鹿児島県『奄美大島御行幸記念写真帖』より



• 現在，古仁屋高校

校庭の発掘調査（8月）の様子



旧陸軍司令部跡を初調査

瀬戸内町教委 古仁屋高校庭、生徒も協力



町教委によると、同校と周辺一帯には43校、大正12年に創立された大正小学校が置かれた。兵や砲弾の食糧などが取り寄せられ、大戦期間の5年に空襲で建物が焼失、世界大戦期間の失業者が溢れるが、これまでも詳しい調査をしていなかった。

5日は油断倉庫があったとみられる所を掘り、コンクリート片の他に黒い物質の塊も見た。

同校は地域と連携し、図書館やマーマの二つに近代遺跡を取り上げ、郷土の意識を高める取り組みをしている。

調査に加わった2年の奥村芽生さん(17)は「司令官があったことを初めて実感した。電美の戦を詳しく知りた」と話した。

調査は、町教委が2011年度から進める第二次世界大戦の戦争遺跡の調査の一環。20年度までの複数の遺跡を調査する計画で、国の史跡指定を目指す。

町教委文化財担当、町長太田さんは「戦争を体験した世代がなくなっていく中、残りが持つ意味を理解することはますます重要になる」と話し、芽生が発掘に参加した意義を強調した。

(西宮木下)

「奄美の戦跡理解、重要に」

關内町教育委員会は、6日、古く屋敷校庭で、旧陸軍毒藥大島製薬所司令部跡の發掘調査を初めて実施した。生徒一人と教師一人が協力し、建物の一部とみられるコンクリート片を見つけた。関係者を詳しく調査する。

南海日日新聞 平成30年8月14日(火)

平和教育は今



習内町助喜吉に屋敷は、高校初等教育委員会が連携し効率的取り組みで、生徒7人も参加して、生徒たちは身近な場所、埋もれた戦争の歴史を学び、当時の人々の暮らしについて思いをはせた。

専美大と加計町専美大に挟まれた大島海峡は、司令部が置かれていた。調

地域に埋もれた歴史学

瀬戸内町・古仁屋高校

発掘調査に生徒参加

4年1月、鴨居の形に
 住み、内務省大臣に大書
 直轄の警備軍が罷去す
 ると、5月、衝突を免
 れる。司令官に謝入
 した。
 45年3月の襲撃で湯
 野町内の警察を学する生
 徒7名死亡。西戸屋
 見、眼下下り地獄に敷
 き詰められた風小石
 は、歴史小説の断片を
 真から、当地の地推
 察された。
 70年代のものを経過
 植物園に、生徒の
 木やコナを手手
 に力がつながる見取
 さん(2年生はもと新
 きた)は、まだ不審
 歴の興味があり、地元
 警察、聞き取り調査成
 果資料は町史館に留し
 指導する米養和警察
 (39)は正統になには
 将差別分道、誰かたは
 てるもの、地元警察は悲
 しめるようになってい
 い。地に根をたためず
 教育にと、キャンパ
 スに記立てたい。こ
 ういう経験を、中、高

[illegible]

と力キキラ（教育課）
化財指定を目標として
税の中にれ込込み継続
してできないか。大学で
も、近代遊戯を研究す
る動きがあり、高・大連
当の学会員岡田太郎さん

調査を担当する町教委
社会教育課理蔵文化財担
当の学芸員岡田太郎さん

町戸層
る生徒は、日、朝戸内
暇の邪魔願望を体験

◇



1. 本行在 2010 年 12 月 31 日止的年度内，共发生 1,000 宗可疑交易报告。

手安弾薬庫跡



陸軍掩蓋式観測所（西古見）



佐世保海軍軍需部大島司庫（久慈）

- （久慈湾に停泊する軍艦に給水する水の水溜です）



いずれも

- ・ とてもきれいな形で残っている
- ・ 学術的価値が高い
- ・ これらを含めた「瀬戸内町の近代遺跡」（19カ所！）
 - “埋蔵文化財包蔵地”となる（2018年9月5日付）
 - 今後は，“国指定文化財”を目指す

そして、奄美白糖製造工場へ…

久慈白糖製造工場とは？

1865年から67年にかけて，島内4か所に建設されたものの一つ。

数少ない資料によると…

- ・ 縦90メートル，横27メートルの2階建て
- ・ 土台にれんが，溶結凝灰岩の切石を使用
- ・ オランダ製の蒸気機関による製糖機械が稼働
- ・ 煙突が7本。最長の1本は36メートル。
6本は18メートル。
- ・ 屋根はトタン葺き

白糖工場誕生のウラ側 ①

- 仕掛け人は島津斉彬
 - 原因は「黒糖の値下がり」
 - より高値で売れる白糖の製造へ
 - 集成館事業の一環
- 1851年、斉彬、鹿児島城内で西洋式の白糖製造実験に成功
- 島津斉彬死去により頓挫



島津斉彬像（輝国神社）

白糖工場誕生のウラ側②

- ・ 斉彬の意志を継いだ五代友厚
蒸気機関による白糖製造を建白
(幕府には極秘)
- ・ トーマス・グラバーが白糖
工場の建設を請け負う。



☆ 五代の「オオシマ・スキーム」^{五代友厚像}
(若き薩摩の群像・鹿児島中央駅)

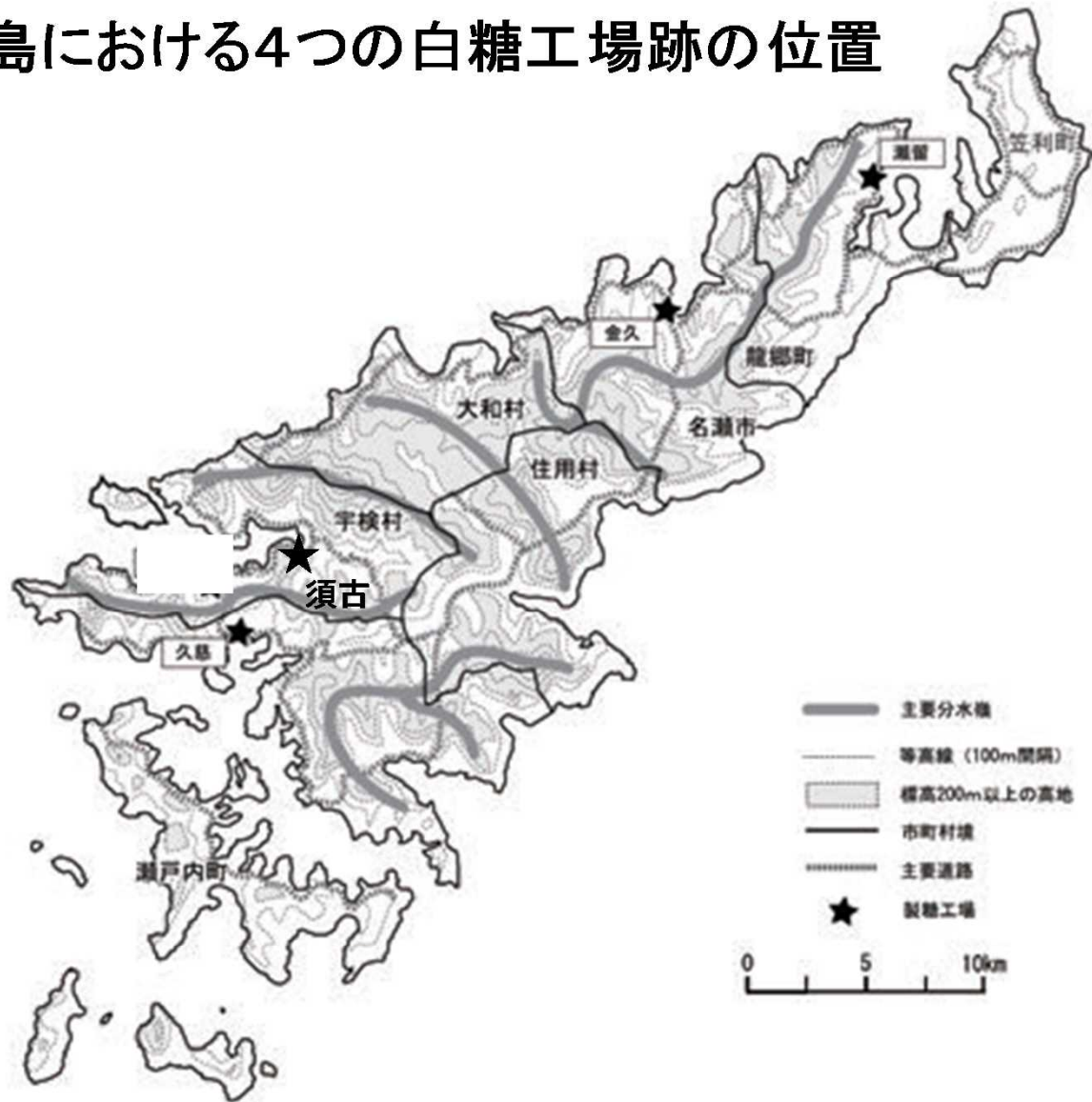
中国・上海との貿易で利益を上げ、国を豊かにする
→ その主力商品として、白糖を世界最先端の工場
で製造する。

奄美大島における4つの白糖工場跡の位置

奄美大島の山がちな地形が集約的大規模工場の建設を阻み、4箇所に分散して工場を建設。

海岸に近接し、背後に小高い山を控え、河川が近くを流れており、集落に隣接した平坦地に立地。

代官所に隣接した金久（29人以上）は管理拠点、須古（66人）と久慈（29人）は主力工場。



（鹿児島県立埋蔵文化財センターが行った久慈白糖工場跡発掘調査現地説明会（平成28年10月22日）で配布された資料から抜粋）

白糖工場誕生のウラ側③

- ・五代の提案が奄美大島での白糖工場建設の契機の一つとなって工場建設が計画される。
- ・鹿児島から100人以上もの大工や石工が動員され、1865年に金久（奄美市名瀬）と須古（宇検村）で、1866年に久慈（瀬戸内町）と瀬留（龍郷町）で工場建設が始まり、2年かけて全て完成。
- ・その後、白糖の製造は順調に行われたが、燃料である薪の不足や、度重なる台風と洪水による被害などにより、1～3年程度で廃止に至る。一番長く操業したのが久慈の白糖工場であったが、それでも5年で廃止。

期待を胸に現地へ…

現在の様子



「跡」なのに「跡形もない。」

“奄美大島白糖工場跡”は

○ 世界自然遺産と同じくらいの観光資源
になり得る

→ 日本で最初に近代的な白糖工場が稼働していた

→ 「日本スイーツの聖地」として売り出せるのでは？

しかしながら！

△とにかく、跡形もなく何も残っていない

△町民ですらその存在を知らない人がほとんど

ミッション まずは！

○ 白糖工場を身近なものにしたい そこで！

→ ① 白糖工場の模型を作成する

→ ② 小学生向けのバスツアーを企画する

○ 多くの関心・理解・賛同・協力を得た上で、お菓子開発や観光商品開発など、次のミッションへ進む。

ミッション①

白糖工場模型

ねらい

- 数少ない資料をできる限り集めて、しっかりと読み込む。
- 50分の1スケールの「工場」として正確な復元模型を作る。
- 当時の白糖製造の流れを明らかにする。

課題

△ 資料が少ない

→ 専門家（大島支庁・田中完さん）
の力を借りる

△ 資料を読み込む力が不足

→ 地歴公民の先生方の協力を
いただく

△ 模型作りの経験がない

→ 校長先生（機械工学）の力を
借りる

△ 時間がない（3ヶ月）、お金がない

→ 今回は自分たちで何とかする
（予算は文化祭準備金 6 0 0 0 円のみ + 自腹！）



主な参考資料

水田丞 2017 「第2章 奄美大島製糖工場」『幕末明治初期の洋式産業施設とグラバー商会』 九州大学出版

水田丞 2004 「旧薩摩藩奄美大島白糖製造工場の建設経緯とその復元的考察
イギリス資本から見た集成館事業の研究（1）」『日本建築学会計画系論文集
第585号 p.177-184

鹿児島県立糖業講習所 1935 『慶應年間 大島郡に於ける白糖の製造』 鹿児島県立糖業講習所

丸山雅子 2015 「ウォートルス①」『ファインスチール』第59巻3号 一般社団法人日本鉄鋼連盟 p.11-12

丸山雅子 2015 「ウォートルス伝②」『ファインスチール』第59巻4号 一般社団法人日本鉄鋼連盟 p.11-12

資料や、車の大きさから、位置・大きさを推定



ここで確認！ 白糖の作り方

1. 圧搾 サトウキビ → 汁
2. 清浄 汁 → シロップ
3. 加熱
4. 濃縮 シロップ
→ 結晶を含んだ濃縮シロップ
5. 分蜜 結晶を取り出す
→ 白糖の完成

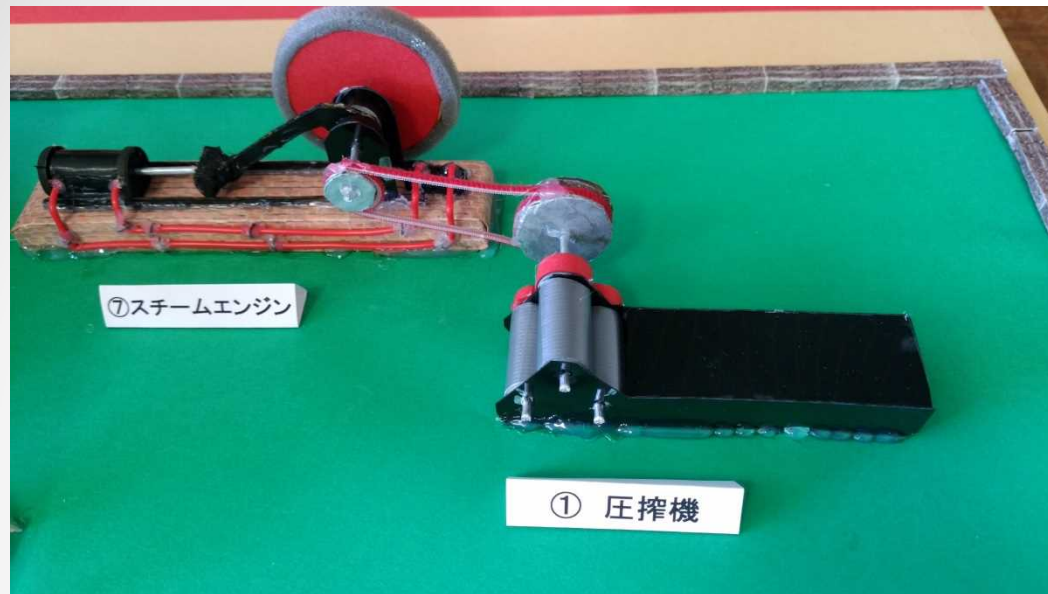
それでは、模型を見ながら工程をたどってみましょう。

あっ さく
1. 圧 搾

さとうきび

→ しる
汁

① スチームエンジン式圧搾機



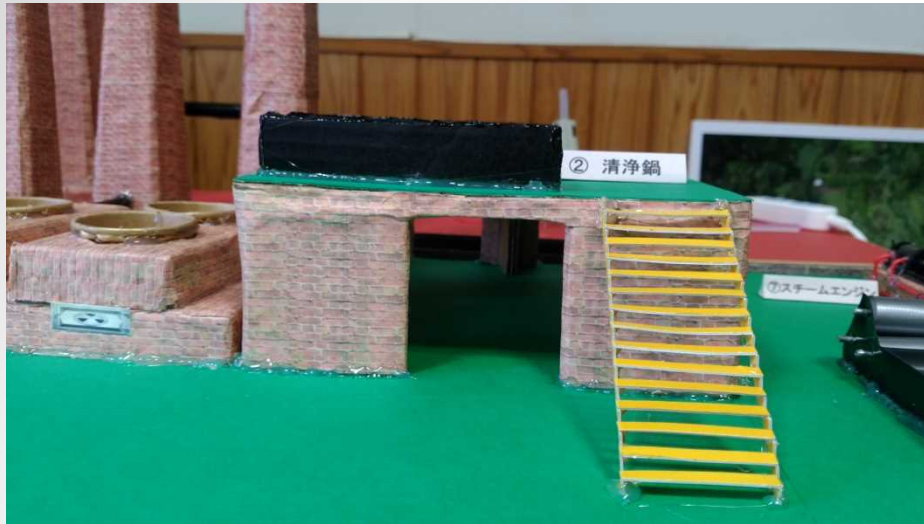
スチームエンジンの回転を3本ローラーの圧搾機にベルトで伝え、サトウキビをつぶし、汁にする。スチームエンジンは、基本的な形状とした。久慈の工場にはスチームエンジン駆動の圧搾機が1台しか置かれておらず、これまで使っていた家畜や水車による圧搾機も同時に使われていたかもしれない。なお、絞りかすは久慈の海岸に捨てられた。

せい じょう
2. 清 浄

か ねつ
3. 加 熱

しる
汁 → シロップ

② 清浄鍋 ③ 加熱鍋



圧搾機でつぶしたサトウキビの汁を人力で台に上げ、清浄鍋に入れる。そこに石灰を入れると、石灰とともによけいな混ざりものがしずんでいく。その後、直径1.8mの丸鍋（容量1,400リットル）に移され、かまどによって加熱された後、濃度の高いシロップとなり、台の下にある「バツテラ」と呼ばれた角鍋にうつされた。

（作成の様子）→

※ダンボールを裁断し、グルーガンで固定

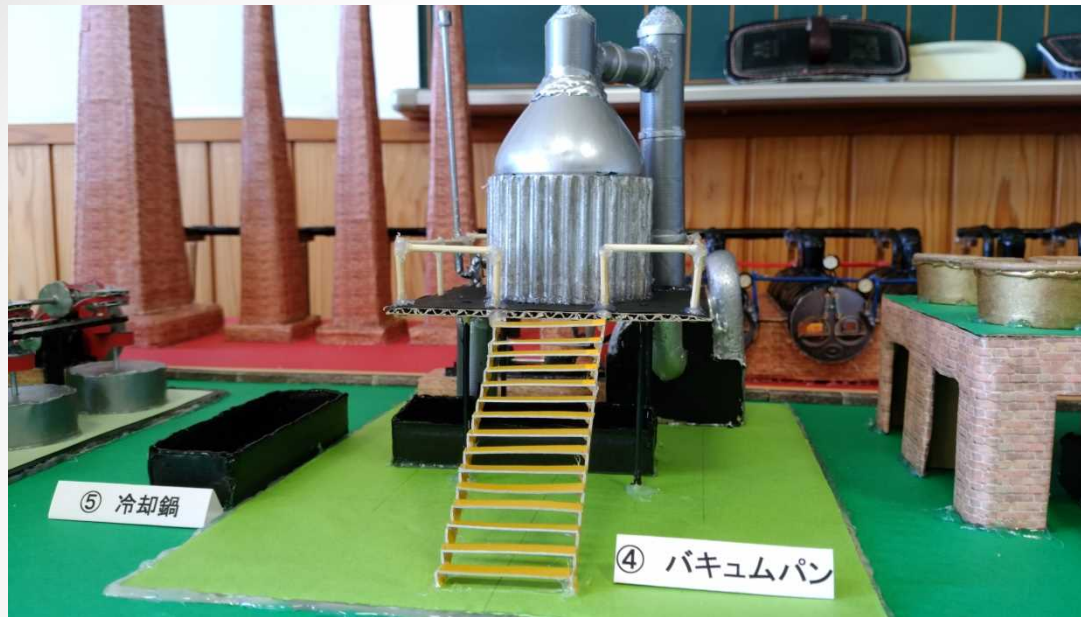


4. のう しゅく 濃 縮

シロップ→

濃縮シロップ

④ バキュームパン ⑤ 冷却鍋



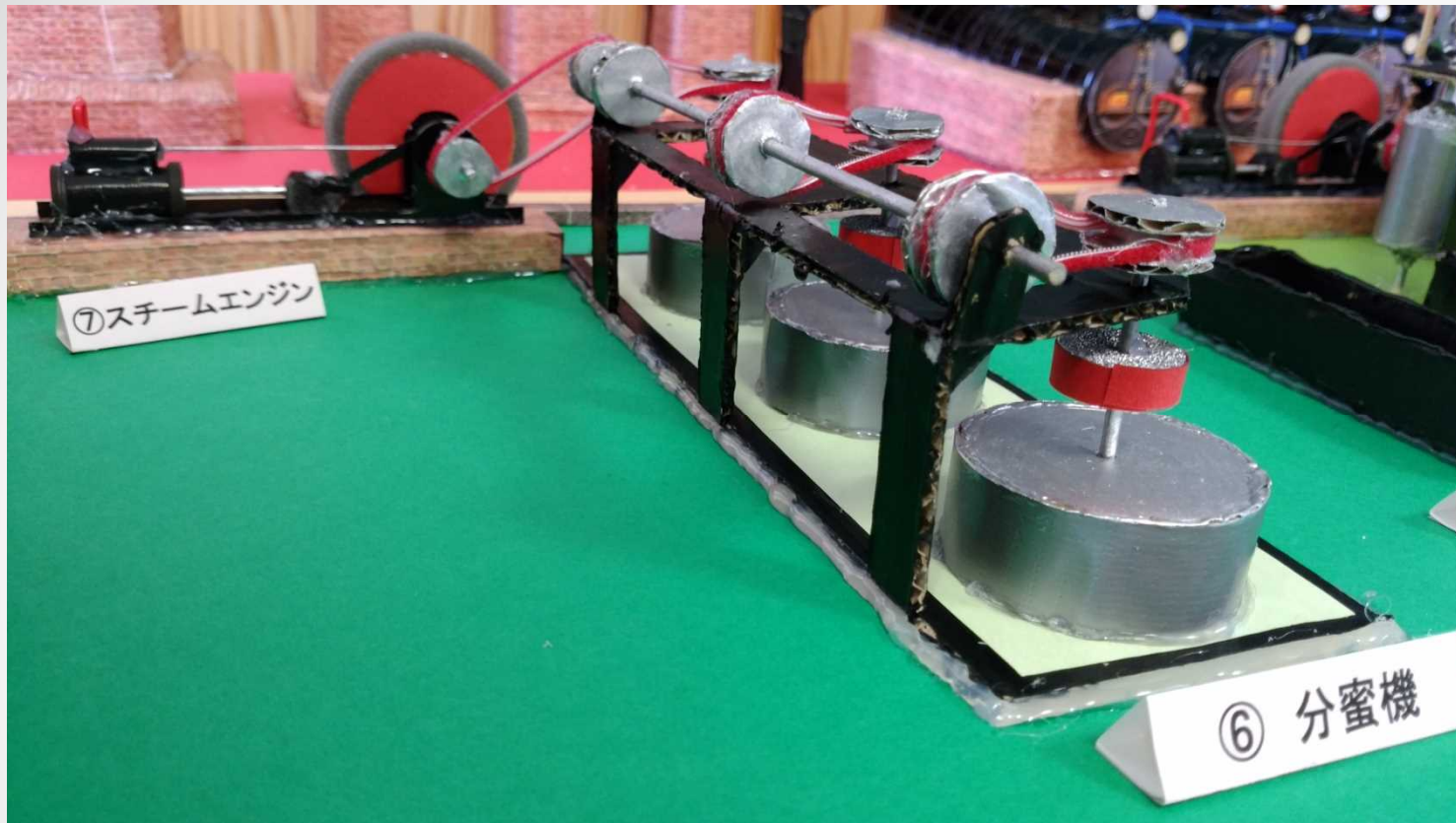
濃度を高めたシロップは、結晶を作り出すバキュームパンに入れる。バキュームパンは床よりも高い位置に作られたステージに置かれ、全体で高さ6mもあった。バキュームパンは、真空結晶缶とも呼ばれ、中は、空気を抜いた状態（真空）に近づく。そこにポンプを使ってシロップを入れ、沸騰させると、結晶化した砂糖が混じった濃縮シロップになる。それを⑤の冷却鍋（ジーカキバン）で冷やす。

5. 分 蜜

濃縮シロップ→

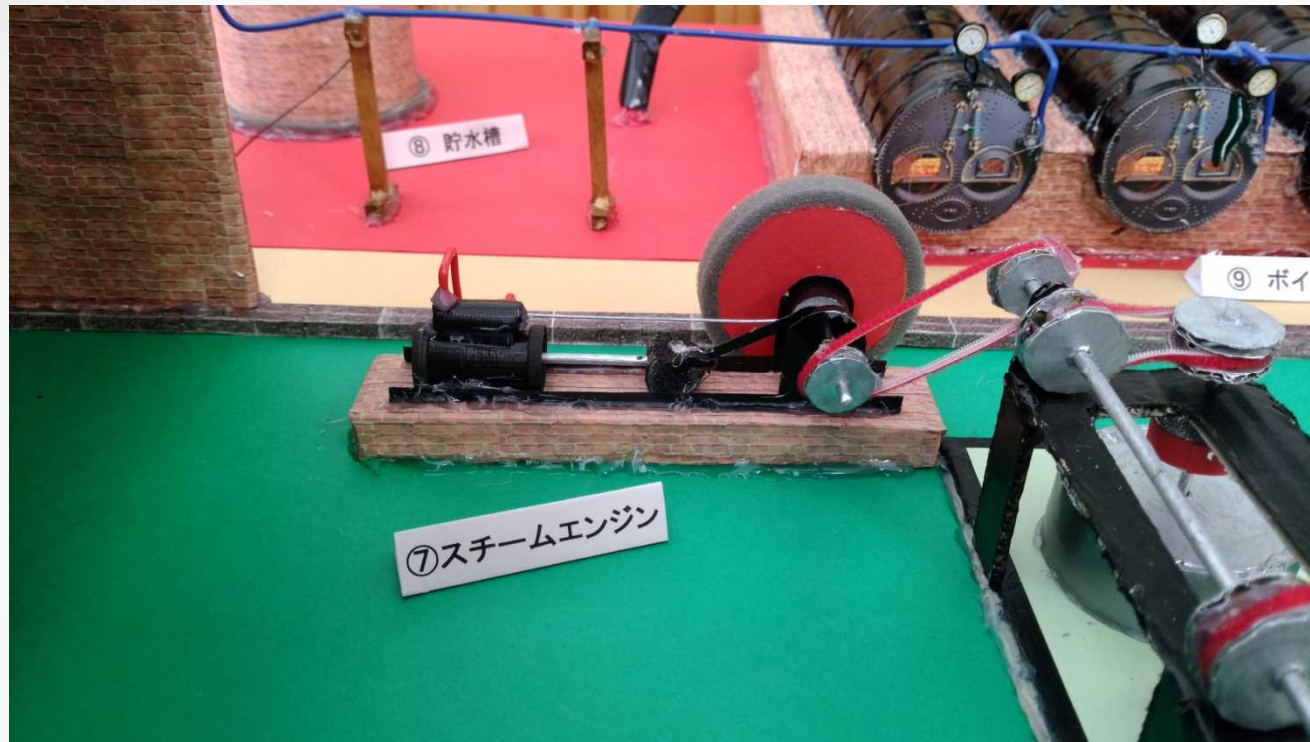
結晶

⑥ 分蜜機



結晶を含んだ濃縮シロップを，分蜜機に入れる。3つのドラムの中には，それぞれ小さな穴が空けられた容器が入っており，その中に濃縮シロップを入れる。中の容器が，スチームエンジンによって高速回転することにより，蜜が吹き飛ばされ，結晶が残る。洗濯機の脱水と同じである。これで白糖の完成である。

⑦ スチームエンジン



ボイラーで薪を燃やし、水を熱して蒸気が発生させる。蒸気をシリンダー内に送り、ピストンを動かす。ピストンの往復運動をクランク機構で回転運動に変え、機械を動かす動力となる。これまでにないパワーとスピードで動き、当時世界最先端の技術であった。150年前の久慈に、蒸気機関で動く製糖機械がずらりと並ぶ白糖工場が建っているのは、まさに「世界史の中の奄美」を思わせる。

⑧ 貯水槽



ボイラーで蒸気を発生させるには、大量の水が必要となる。当時も今も白糖工場があった付近には川が流れており、それを利用したと思われる。今回の研究では、川から水路を通し、かつ貯水して利用していたと考え、貯水槽も作成した。貯水槽は、当時イギリスが世界中に建てた工場に使われていたものをモデルにした。

⑨ ボイラー



久慈白糖工場には、7つのボイラーが設置されていたと言われている。主に薪を炊いて蒸気を発生させていた。

構造は当時の蒸気機関車と同じと考えた。ボイラーから鋼管でスチームエンジン等へ蒸気を送っていたと考える。

配管表面からの放熱を減らすために、トレンチ（煉瓦積み溝）を掘り、配管していたと考えた。また、燃料が薪であることからスチームエンジン機に対して複数のボイラーが動いていたと思われる。

煙 突

ボイラーから出る煙を排出する煙突は7本あり、1本は高さ36m、6本は18mと、とても大きかった。工場建屋より高い位置での排煙がなされていた。6本は加熱鍋のかまど用につかわれていたものと仮定した。

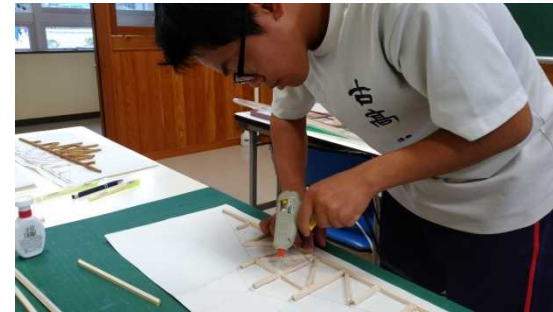


← ボイラーの材料はスチール缶なので、頑張って缶コーヒーを消費した。

建 屋



建屋は間口27m、奥行90mの、それはもう巨大なものであった。屋根は当時最先端のキングポストトラス構造になっており、厚さ9cmのトタン葺きであった。建屋に使用されたレンガについては、特筆すべき事実がある。（次が続く）



日本レンガ史のルーツ



蒸気機関（スチームエンジン）は、ものすごい振動と熱を発生させるため、国外から輸入した耐火レンガで囲い込む必要があった。

薩摩藩から依頼されたグラバー商会は、イギリスのコーウェン（COWEN）社が製造した耐火レンガや、植民地で製造したと思われるレンガ（ステファンソン（STEPHENSON）と刻んである）を用意した。

その後、白糖工場の建設技師であったウォートルスが日本人の手のサイズに合うレンガを作り、工場の建屋には主にそのレンガが使われた。このレンガこそ最初の日本レンガの一つである。



このレンガは大阪に持ち込まれて普及し、改良を重ね日本各地のレンガ建築に使われた。後に久慈に日本軍の水溜が建設されたときも使われた。「レンガの里帰り」である。

須古集落では、「COWEN」と書かれた耐火煉瓦を見ることができる。イギリス北部で耐火煉瓦メーカーとして成功したジョセフ・コーウェン社で製造されたもの。



「白糖石」

建屋や機械などの基礎に使用された石材は、島外から持ち込まれたものである。白糖工場の閉鎖にともない払い下げられ、現在も島内の各地で見ることができる。ほかの石材と区別されて「白糖石」と呼ばれ、さまざまな形で利用されている。



小学校の塀に使われていた跡（久慈）



民家で「花壇」として使用（宇検町須古）



民家の塀などに使用（いずれも宇検町須古）

その正体は溶結凝灰岩で、鹿児島で起こったカルデラ噴火で噴き出されたものである。鹿児島では、意外と柔らかく加工しやすいこの石で有名な石橋などを作ってきた。白糖工場を建設するにあたり、大量の凝灰岩切石が船便で持ち込まれ（それはもう重かったであろう）、工場や機械の基礎に使われたのである。



← 日本最初のレンガ！

↑
凝灰岩切石。現在も島内各地で見ることができ、
「白糖石」と呼ばれ、親しまれている。

外国人技師の活躍

- 白糖工場の建設は、グラバーが請け負い、1865年にグラバーが奄美大島に来島した記録も残る。
- 実際の工事は、アイルランド出身の建築・機械技師、ウォートルス（30歳くらい）や、白糖製造技師のマッキンタイラー（35歳くらい）が金久の秋葉山（現在の蘭館山）に建てられた洋館に住みながら、指導に当たった。
- 総監督のウォートルスは、奄美大島での白糖工場建設のあと、大阪造幣局の近くにある応接所として使われていた泉布観（1871年）という建物や銀座の煉瓦街（1873年～1877年）の建設にも携わり、ウォートルスの時代とも呼ばれている。



トーマス・ウォートルス
Harper, Robert Lee. Colorado mines
Denver: Carson, Hurst & Harper,
art printers, c. 1891

ウォートルスは、英国商人グラバーの斡旋で奄美大島を訪れ、1865年から3年かけて4箇所、白糖工場（日本初の洋式製糖工場）を建設したほか、鹿児島紡績所や国分敷根の火薬製造所などの建設にも関わっていたと言われている。



大阪造幣局の応接所、泉布館（1871年竣工、国の重要文化財）天皇や皇族、外国の賓客の滞在に利用された。明治時代に改修された姿で保存されている。



銀座煉瓦街（銀座1丁目～8丁目、約25万㎡に約1,500戸を築いた。）。1872年の大火を受け、耐火都市の建設がウォートルスに託された。

らんかん橋節

大水（うくむいでい）ぬ出（いじ）てい

らんかん橋洗流（あれいなが）らち

（ハヤシ） スラヨーイ ヨーイ

らんかん橋洗流（あれいなが）らち

（ハヤシ） ランカンバシ アレイナガラチ

忍（しぬ）でい来（きゅ）る加那や ヤーレー

泣ちどうまた戻（むど）る

（ハヤシ） スラヨーイ ヨーイ

泣ちどうまた戻（むど）る

（大水が出て、**らんかん橋**が洗い流され、忍んで来た恋人は逢いたい人に逢えずに、泣き泣き戻った。）

この島唄は、ウォートルスが暮らしていた洋館（蘭館）の島の女性「ましゅ」との悲しい恋物語から名前が付いたとされている。

完 成



報道機関向けお披露目会の様子

南日本新聞 平成30年10月26日 (金)

久慈白糖工場を再現

古仁屋高1、2年生 模型製作

あす文化祭で展示

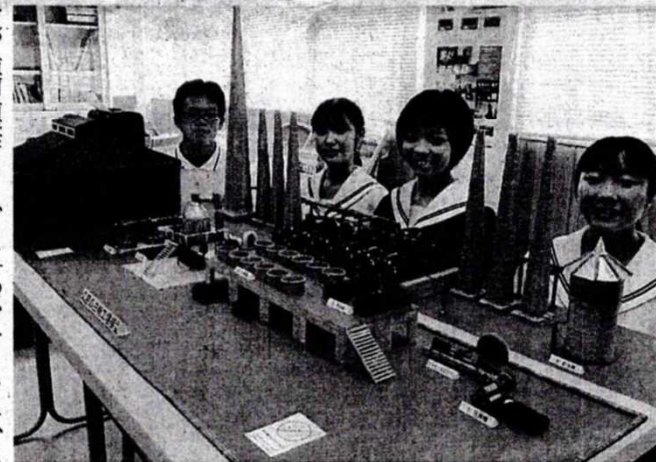
場の一つ。面積は約2400平方メートルあり、蒸気機関を利用した当時最先端の近代製糖工場として、1867(慶応3)年から約5年間稼働した。

模型は社会科で地理、日本史、世界史を選択する生徒が放課後に集まり、約2週間で作り上げた。機械工学が専門の大山良一校長が監修し、参考文献を基に設備の配置などを解説した。

28日には、地元小学生や幼稚園児を招くバスターを開催し、白糖工場跡を案内する予定。

瀬戸内町の古仁屋高校1、2年生12人が、幕末維新期に同町久慈で稼働していた薩摩藩の白糖工場の模型を作った。縦54センチ、横180センチと、実物の50分の1の大きさ。段ボールや竹串を使い、れんが造りの煙突やボイラーを精巧に再現した。27日の同校文化祭に展示される。

工場は、薩摩藩集成館事業の一環で奄美大島に4カ所造られた工



出来上がった白糖工場の模型を前にする生徒たち
＝瀬戸内町の古仁屋高校

定。模型製作リーダーの2年濱田怜弥さんは「瀬戸内にこんなに大きな工場があったことや、サトウキビから砂糖を作る過程をイメージしてほしい」と話した。(藤崎優祐)

文化祭展示の様子



評 価

山岡 邦章 様（岸和田市教育委員会）

白糖工場の研究としては、現在の学術レベルでは
最高到達点ではないですか？

（フェイスブックより）

武田 政文 様（久慈集落区長）

これほどに推定生産工程・工場模型を提示され、
作られた皆様に深謝あるのみです。

（アンケートより）

2017年3月 奄美新聞より 実際に発掘された白糖工場跡



現在は、埋め戻されています

ミッション②

白糖製造跡を巡るバスツアー

ねらい

- ・小学生（と、その保護者）をターゲットにする。

→ いずれは、幼・小・中・高・大と
タテに広がる『瀬戸内町独自の研究』にしていく。

- ・ 白糖工場跡以外のものもツアーに取り入れる
(シリアル・ノミネーション)

→ いずれは、地域創生学，観光学，自然地誌学
など，ヨコにひろがる「学問体系」にする。

課題

- △ 小学生にとって、敷居が高い
 - 無料にする。
 - 謎解きツアーにする。
 - 「白糖」＝「スイーツ」
＝「ハッピーハロウィーン」の論法でイベント化
- △ 地域へのひろがりがない
 - 地域のイベント（商工会まつり）とコラボ
- △ 「白糖工場跡」だけでは弱い
 - 戦跡見学や地元に関するクイズを盛り込む
- △ 予算0円
 - 役場の協力（バス）、有志の協力をもらう。

1. 告知

- (1) 模型お披露目の際に
新聞社に P R
- (2) 学校関係者（親子で
関心が高い）に P R

かいとうしからのちょうせんじょう
「しろいダイヤモンドの
なぞをとけ」

こにやのみなさん、かいとうしが、150ねんまえ
にせとうちでつくられていた“しろいダイヤモンド”
をねらっているというしょうぼうがはいりました！

なぞときをしながら、かいとうしをバスでおいかけ
よう！

にちじ：10がつ28にち にちようび 9：00～

しゅうごうじかん：8：50

しゅうごうばしょ：こにやこうこう

※保護者の方も参加することが条件です。（自家用車でバスについていてもら
います）

2. イベントの実際



参加者：29人

ハロウィンイベントも兼ねて仮装
も楽しむ内容

手安弾薬庫跡 ↓

ハロウィンの雰囲気意外と合っている
弾薬庫跡



佐世保海軍軍需部大島司庫（水溜）



←かいとうU

某人気探偵アニメ
の力を借りたら
絶大な
効果が得られた。

謎解きで白糖工場と水溜のレンガとのつながりをレクチャー

かいとうりを追跡し・・・



←久慈で白糖石を発見



久慈の白糖石

「白糖石」として現在まで利用されていることを学んだ。



← 久慈白糖工場跡
で記念撮影

子どもたちに模型の
レクチャー →





← 高校生ガイドが
子どもたちへハロウィンの
お菓子を贈呈

今後、お菓子を
地域のメーカーと
コラボ開発できるか
検討したい。



最後は、商工会まつりで謎解きの発表



評価（アンケートより抜粋）

かいとうりがいたからたのしかった。

かいとうりが出てきてなぞをとくのが楽しかった。

かいとうりをおっかけるところ
（が楽しかった）

ガイドの人がわかりやすくおしえて
くれて楽しかった。

商工会まつりでの発表まで、もう少し
時間を抑えられればもっと良かった

なかなか自分たちでは行かない場所
に行き説明をしてもらえて歴史にふれる
ことができたのが良かった

子どもたちが夢中で、いい伝承方法だ
と思った。



1 今日の「ツアー」の時間はどうでしたか？

長かった ちょうどよい 短かった

2 今日のツアーのガイドはどうでしたか？

わかりやすかった ふつう わかりにくかった

その他（ ）

3 今日のツアーの感想を聞かせてください。

楽しかった ふつう 楽しくなかった

4 3のような気持ちになった理由を教えてください。

5 ツアーの感想や、ガイドさんに伝えたいことなどあったら書いてください。

おなまえ

報道の様子

【第3種郵便物認可】

南 海 日

クイズを解きながら瀬戸内町内の近代遺跡を巡るバスツアーが28日、町内であった。県立古仁屋高校の生徒3人と教諭が企画した歴史探訪イベント。小学生と保護者ら約30人が参加し、白糖工場跡など地域の歴史を楽しく学んだ。主催者の一人、同校2年の濱田怜弥さん(17)は「白糖工場を知ってもらうのが目的。小学生から白糖という言葉が聞けただけでもうれしかったと振り返った。

ツアーは、濱田さんが扮する「怪盗U」が出題するクイズを解きながら、「白いダイヤモンド」の正体を追い求める設定。古仁屋高を発着点に、久慈集落の白糖工場跡を目指した。

途中、手安嶺築庫跡や久慈水溜跡に立ち寄り、高校生ガイドが建物の構造や地域の歴史を解説。小学生たちは各地の赤レンガや凝灰



写真などをヒントに、工場の基礎に使われていた白糖石(凝灰岩)を見つけた小学生ら=28日、瀬戸内町久慈

古高生企画で遺跡巡り

瀬戸内町

白いダイヤの謎を解け

秀和教諭は「来年以降、跡については、他校とも続けていきたい。島連携しながら新たなツアーを計画したい」と

語った。家族と参加した櫻井尚佳さん(7)は「白糖工場跡は、クイズが難しかったけど、怪盗Uを追いかけられるのが楽しかった」と感想。ハロウィーンの前、仮装姿の参加者も見られた。

南海日日新聞

平成30年10月30日(火)

奄美新聞 平成30年11月2日(金)



地域の近代遺跡巡る

生徒企画 白糖工場跡バスツアー

瀬戸内町の生徒が企画した「白糖工場跡バスツアー」が28日、町内であった。県立古仁屋高校の生徒3人と教諭が企画した歴史探訪イベント。小学生と保護者ら約30人が参加し、白糖工場跡など地域の歴史を楽しく学んだ。主催者の一人、同校2年の濱田怜弥さん(17)は「白糖工場を知ってもらうのが目的。小学生から白糖という言葉が聞けただけでもうれしかったと振り返った。



ツアーで行く先々で怪盗U(右上)が現れ、現物状がたきつけられました

小学生ら謎解き楽しむ

と好評だ。濱田さんは「怪盗U」の衣装を着て、ツアーに参加した。濱田さんは「怪盗U」の衣装を着て、ツアーに参加した。濱田さんは「怪盗U」の衣装を着て、ツアーに参加した。



その後の活動①

12月9日（土）白糖工場跡である久慈集落の公民館にて大島支庁田中 完さんとコラボレーションしての講演会を実現。

「久慈白糖工場跡」と
「明治日本の産業革命遺産」

平成30年12月9日(日) 午後2時から3時
※時間は、予定時間です。多少前後する事があります。

会場:久慈集落公民館(瀬戸内町久慈集落中央海側)
※会場の久慈集落は、古仁屋から西へ車で約40分かかります。

幕末、久慈集落に建設された「久慈白糖工場跡」と世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」について、古仁屋高校の生徒さんや大島支庁総務企画部長の田中完さんが、わかりやすく解説してくれます。

また、古仁屋高校の生徒が製作した久慈白糖工場跡の模型もお披露目されますので、この機会にぜひ、久慈集落へお越しください。



大島支庁 田中 完 さん



復元模型を製作した古仁屋高校生

久慈白糖工場跡復元模型(1/50)

その後の活動②

奄美歴史浪漫探訪「幕末・明治」推進事業

観光パンフレット（観光用看板）に採用される可能性が出てきました。



上 アマミノクロウサギの写真で著名な写真家 濱田太さんが
提案資料用の写真撮影に来訪

まとめ

次のミッション ～白糖工場のブランド化を目指して

① 白糖工場ブランドのスイーツ開発

- 白糖工場があった当時のスイーツ事情を考慮し，新製品を構想
- お菓子メーカーと協力して，新製品開発
- 商業ベースに乗せられれば理想的

② 日本スイーツ聖地巡礼四大ツアーの策定

- “スイーツ”“季節感”を考慮したツアーを考える。
- 久慈ハロウィンコースに続き，瀬留クリスマスコース，
金久バレンタインコース，宇検イースターコース

いかにして関係団体の協力を得るかが重要

目 標 ～このミッション（取組）を，“未来”へつなぐために

こどもにとっても，おとなにとっても，「うまみ」のあるものにしよう！

- ① 白糖工場を含めた「近代遺跡」を，瀬戸内町の小・中・高を通じた研究体系にする。

→ 高校の段階で学会発表ができるレベルになれる！

- ② 白糖工場跡を核としたシリアル・ノミネーションを考える。

→ 日本スイーツ聖地巡礼四大ツアーが商業ベースに乗る！

次のミッション ～白糖工場のブランド化を目指して

① 白糖工場ブランドのスイーツ開発

- 白糖工場があった当時のスイーツ事情を考慮し，新製品を構想
- お菓子メーカーと協力して，新製品開発
- 商業ベースに乗せられれば理想的

② 日本スイーツ聖地巡礼四大ツアーの策定

- “スイーツ”“季節感”を考慮したツアーを考える。
- 久慈ハロウィンコースに続き，瀬留クリスマスコース，
金久バレンタインコース，宇検イースターコース

いかにして関係団体の協力を得るかが重要

以上で発表を終わります。

